

目の健康
考えてみませんか!?

第22回

目の健康講座 in 山口

入場
無料

一般のみなさま向けの講座です。

■日時

令和
4年

9月25日 日

13:30~16:00 開場11:00

11:00よりホワイエにて視覚福祉機器展示
※講演は13:30開始です

■会場

山口県教育会館 定員200名 (ソーシャルディスタンス確保のため席と席の間隔を空けます)

山口市大手町2-18 駐車場50台 ※近隣の駐車場もご利用ください

台数に限りがございますのでなるべく公共の交通機関をご利用ください

感染対策のため施設内ではマスクご着用をお願いします

発熱等体調不良の場合は入場をお断りさせていただく場合がございます

クラスター発生時にご連絡差し上げるため代表者氏名および連絡先を受付でご記載いただきます

新型コロナウイルス感染症の流行状況によってweb開催への変更もしくは中止となる場合がございます

詳しくは山口県眼科医会ホームページ

<http://www.yamaguchi.med.or.jp/g-med/gankaikai/>

をご参照ください



山口県眼科医会ホームページ

一部

講演①「緑内障とその治療について」

山口大学大学院医学系研究科眼科学

永井 智彦先生

講演②「ご存知ですか?『加齢黄斑変性』のこと」

山口大学大学院医学系研究科眼科学

山口大学医学部附属病院臨床研究センター

湧田真紀子先生

二部 目の健康相談

みえづらい方のための福祉機器展示

場所 ホワイエ ※遮光眼鏡やルーペ、拡大読書鏡などご体験いただけます



■主催

●日本眼科医会 ●山口県眼科医会

■後援

●厚生労働省 ●日本医師会 ●日本失明予防協会 ●日本アイバンク協会 ●山口県医師会 ●山口県薬剤師会 ●山口市 ●山口市医師会 ●吉南医師会 ●山口市薬剤師会 ●NHK山口放送局 ●tysテレビ山口 ●yab山口朝日放送 ●KRY山口放送

目の健康講座 in 山口

令和4年度
山口市

ごあいさつ

わたしたちは、五感によって外界から多くの情報を取り入れています。その大部分が視覚からであり、安全で文化的な生活をするには、良好な視機能が必要です。

長寿に伴う老化は避けられませんが、加齢白内障のように眼内レンズによって視力を回復できるようになったものもあります。医学の進歩により、検査精度や薬、手術法が進歩したとはいえ回復困難な病気もあります。現在、成人の中途失明の原因は、緑内障、網膜色素変性症、糖尿病網膜症、次いで黄斑変性(加齢黄斑変性)となっています。その中で、緑内障は中高年に多く早期発見と適切な治療により進行を抑制できるにもかかわらず、自覚症状に乏しいため発見が遅れがちです。加齢黄斑変性は、高齢化に伴い増加しています。かつては有効な治療に乏しかったこの病気も、最近は治療が進歩し、進行の抑制改善が期待できるようになりました。

健康長寿を全うするためには視機能の維持が大切です。今年は、テーマとして緑内障と加齢黄斑変性を取り上げました。講師の先生方には、専門的立場からみなさんに分かりやすく解説していただきます。

山口県眼科医会は、目の健康を守るために毎年、「目の健康講座」を開催し啓発を行っています。このたびの講座がみなさまのお役に立てることを願っています。

山口県眼科医会
会長 大西 徹 先生

一部 講演

緑内障とその治療について

山口大学大学院医学系研究科眼科学
永井 智彦 先生

緑内障は主に視野障害をきたす進行性の視神経の病気です。我が国における失明原因の第1位となっています。日本緑内障学会が行った疫学調査では、40歳以上の日本人の20人に1人の割合で緑内障患者さんがいることが明らかとなりました。また、緑内障の有病率は、年齢とともに増加することが知られており、高齢化が進む我が国においては今後さらに患者数が増加していくことが予想されます。調査では、発見された緑内障患者さんのうち、それまでに緑内障と診断されていたのは全体の1割程度で、緑内障に気づかずに過ごしている人が大勢いることが判明しました。実際に緑内障患者さんは、かなり病期が進行して視野や視力が悪化して初めて眼科を受診することも多いようです。緑内障は、喪失した視機能を治療によって取り戻すことができない病気ですが、眼圧を下げることであれば、進行を防止したり、遅らせたりすることができる可能性があるため、早期発見・早期治療が特に重要と言えます。本講演が緑内障に対する理解を深める機会となれば幸いです。

ご存知ですか？

『加齢黄斑変性』のこと

山口大学大学院医学系研究科眼科学
山口大学医学部附属病院臨床研究センター
湧田 真紀子 先生

私たちの目の奥には網膜という光を感じる膜があり、黄斑は網膜の中心で視力を担う大切な場所です。加齢黄斑変性とはその名の通り、加齢によってこの黄斑が傷んでしまい、ものが歪んで見える、中心に影がかかる、視力が下がるなどの症状が出る疾患で、日本やアメリカで失明原因の上位となっています。しかし、かつては不治の病だったこの病気も、この十数年間の医学・医療の進歩によって少しずつ病態が解明され、新しい治療法も開発されてきました。

今回はこの加齢黄斑変性という疾患について、よく間違われやすい他の黄斑疾患の話も交えて分かりやすく説明しながら、現在一般的に行われている検査法、治療法の内容やその変遷と進歩、そして最新の情報についてご紹介いたします。

加齢黄斑変性では、早期の発見と適切な時期の治療がとても重要です。この講演を通じて多くの方にこの病気について知って頂ければと思います。

二部 目の健康相談

質問用紙を当日お渡しいたします。ご質問のある方は質問用紙にご記入いただき、受付にご提出ください。時間の関係上、全てのご質問にはお答えできない場合があります。あらかじめご了承ください。